

「東京国体」を振り返って

強化委員長 吉田良一

秋冷の候、貴台におかれましては、ますますご清栄のことと、心よりお喜び申し上げます。

日ごろから、本県陸上競技の競技力向上に、絶大なるご支援、ご協力をいただきまして厚くお礼申し上げます。

さて、第68回 国民体育大会『東京スポーツ祭2013』が、十月四日より八日まで、東京都の「味の素スタジアム」に於いて開催されました。本県の精鋭29名が今大会に挑み、天皇杯二十一位、皇后杯二十三位という成績を収めることができました。

個々の成績を見ますと、優勝こそありませんでしたが、数々の華々しい結果を残すことができました。北川貴理選手（敦賀高校）が、少年男子A 400mで県高校新記録で2位に入賞しました。北川選手は、8月に行われた大分インターハイでの7位を上回る会心のレースを見せてくれました。来年の長崎国体にも、同種目が予定されており、是非とも優勝を目指してほしいと思います。成年男子やり投では、奥村浩司選手（大野高校教員）が、一投目に80mの大台を投擲して、5位に入賞しました。奥村選手は、昨年の悔しさを一蹴する会心の投擲を見せてくれました。少年女子A走幅跳では、岩崎幸菜選手（敦

賀高校)が2年ぶり3回目の入賞となる5位に入賞しました。また、少年男子B走幅跳でも安永聖選手(藤島高校)が7mを超えるジャンプで5位に入賞。高校に進学し精神的な成長が好結果に繋がりました。少年女子B走幅跳では、今大会トップバッターを務めた今井瑛子選手(敦賀高校)が6位と、入賞第1号を決めました。今井選手が、大きなプレッシャーをはねのけて、入賞できたことが後陣に勇気を与えてくれました。少年男子A1000m濱出大輔選手(三国高校)・少年男子共通800m増田健人選手(北陸高校)・少年女子B200m百足千香選手(北陸高校)が6位、少年男子A三段跳大谷桂輔選手(三国高校)・少年女子A1000mH大久保有梨選手(敦賀高校)が7位、少年女子A400m松ヶ谷茜里選手(敦賀高校)が8位と、計6名の少年選手が全国大会初入賞をはたしました。また、入賞こそ逃した選手も、多数の選手が自己記録を更新することができました。

今回の好成績は、本来の福井県チームの戦い方である『入賞ギリギリの選手を6・7・8位に入賞させる』ことが、実践できたことが大きく影響していると思います。また、3年前から取り組んでいるジュニア選手の強化策が、結果として現れていることに自信を持ちたいと思います。しかし、一方で、入賞が期待されていた成年選手が、春先の怪我などから、後一步のところに入賞を逃し

てしまいました。福井県から離れて競技を続けている成年選手へのかかわり方やバックアップの方法が今後の課題となりました。

東京国体が終了したばかりですが、福井国体まで後4年と迫りました。来年は、長期計画の『最大強化期』に入ります。雪国福井県にとっては、全国の強敵と戦うことは、容易なことではありません。しかし、長崎国体では40点に目標を定め、強化スタッフが一致団結し、課題を一つひとつ解決し、強化に取り組んでいきたいと思っています。

代表選手ならびに強化スタッフの先生方をはじめ、所属長様、また各顧問の先生方には、大変お忙しい状況の中にもかかわらず、ご理解、ご協力をいただき深く感謝しております。どうぞ皆様、来年度以降も福井県チームが、少しでも大きな力を発揮できますよう、引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

失礼ながら、紙面上でありますますが深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

平成二十五年十月